

# 知財学習プログラムのご案内

「知的財産権って、むずかしそう」「著作権や肖像権って私たちにも関係あることなのかな?」「海外や大企業の話かな?」……

多くの人にとって法律や契約、権利といった法の問題はむずかしく、まして知的財産権は大事そうで気になるけれども、どこから手をつけていいかわからない敷居の高いものなのではないでしょうか。

そこで、私たちは知的財産や知的財産権について気軽に学ぶことができる学習プログラムを開発しました。関心のある方はぜひお問い合わせください。

## 主な対象者

- ・大学や専門学校でアートやデザインを学ぶ人に。
- ・知財をテーマにした学校教育や企業研修を考えている人に。
- ・障害のある人の表現を社会に発信していきたい人に。
- ・ファブスペースの運営に携わる人に。
- ・民芸品や伝統工芸品のメーカーではたらく人に。
- ・…表現の発信やものづくりにかかわるどんな人にも。

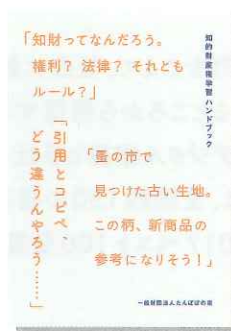
- ① たんぽぽの家では、「障害のある人のアートと著作権に関する研修」や「知財学習について学びあう研修」を行なっています。
- ② オリジナルの教材(ハンドブックやゲーム)をつかった、わかりやすいプログラム内容です。
- ③ ご要望に応じて研修内容をご提案いたします。

## 表現をめぐる知的財産権 について考える本



障害のある人と表現することを通して、社会とつながる仕組みづくりに取り組むなかで学んできた、知的財産権にまつわる事柄をまとめたもの。章ごとに関わる基礎知識をさみながら、有識者の個別の視点もコラムとして掲載。  
(1,000円+税/購入可)

## 知的財産権学習 ハンドブック



知財のエッセンス、基本のきを学べるハンドブック。商品化の際や創作の現場でありがちな課題、知財のトラブルあるある話をマンガで紹介。また、さまざまな表現やものづくりに関わる人たちからの知財のエピソードなどを収録。  
(ウェブサイトよりダウンロード可)

## 知的財産学習 カードゲーム

「知財<sup>チザイ</sup>ヤポン! まもって  
ひろげてアートを発信」



知財を学び深めるためにつくったカードゲーム。自分や他者の表現を社会に発信するときに必要な考え方や、どうしたらうまく広めることができるかを直感的に学べます。参加者同士の配慮や協力を大切に、楽しみつつ、知財の運用を学ぶことができます。  
(3,500円+税/購入可)

詳しくは「知財学習推進プロジェクト」オフィシャルページをご覧ください。 <https://chizai.goodjobcenter.com/>



ぜひ、お気軽に  
お問い合わせ  
ください。



一般財団法人たんぽぽの家  
〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3-25-4 <https://chizai.goodjobcenter.com>  
TEL 0742-43-7055 / FAX 0742-49-5501 E-mail: chizai@popo.or.jp

## ABOUT US

私たちはこれまで障害のある人たちのアート活動を社会に発信する方法として、作品の販売や商品化などに取り組んできました。2007年には障害のある人のアートを企業などが広報や商品に二次使用できる仕組み「エイブルアート・カンパニー」を設立しました。そうしたなかで、知財にかかわる契約をかわすことも多くなり、知財は企業や海外などできかれるような遠い世界の話ではなく、身近な、かつ人権にもかかわる大切な問題だと気づきました。

また、こうした課題は福祉に携わる私たちだけではなく、個人のクリエイターや伝統工芸などにかかわるメーカー、ファブスペースなどでのものづくりなどにも共通のものだということがわかりました。そこで、私たちは、知財になじみのない人たちが気軽に学ぶことができる学習プログラムの開発を行いました。\*

知財や法について学ぶことは一見難しいことですが、大切なのはどのように活用・運用するかだと思います。

ぜひ、本学習プログラムをお試しいただき、知財について考え発信する機会をつくりましょう。

一般財団法人たんぽぽの家

### \* 知財学習プログラムの開発

2018年度より知財の保護や運営に関する知識を身につけた人材を育成し、より多様な人たちが知財を活用できる土壌を作り出すことを目的に知財学習プログラム検討会を発足。知財に関するニーズや課題の調査を実施、それらから得られた知見をもとに、学習プログラムを開発してきました。(助成:2018年度 近畿経済産業局、2019-2020年度文化庁)

#### これまでお世話になった検討会メンバー

塩瀬隆之(京都大学総合博物館准教授)、小林茂(情報科学芸術大学院大学教授)、白石晃一(ファブラボ北加賀共同代表)、高島雄一郎(登大路総合法律事務所、弁護士)、橋本高志(社会福祉法人ぶろぼのテクノパークぶろぼの高の原センター長)、藤井克英(社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job!センター香芝副センター長)、中根伸一(一般社団法人奈良発明協会事務局長)、渡瀬聡志(株式会社中川政七商店商品第三課課長)

### エイブルアート・カンパニー

2007年設立。東京にあるNPO法人エイブル・アート・ジャパン、福岡にあるNPO法人まる、一般財団法人たんぽぽの家で共同で運営。現在、全国の113人のアーティストが登録し、作品約13,000点をウェブサイトで公開している。企業やクリエイターとコラボして作品を商品化したり、デザインとして使える仕組みをつくることで、障害のある人のアートを仕事につなげている。

 [www.ableartcom.jp](http://www.ableartcom.jp)



### Good Job! センター香芝

障害のある人とともにアート・デザイン・ビジネスの分野をこえて、社会に新しい仕事をつくりだすことをめざす。工房やストア、カフェなどものをつくる場所から発信するところまでを障害のある人と行う。3Dプリンタやレーザーカッターなどのデジタル機器と手仕事を組み合わせた商品づくりを行う。また、「GOOD JOB STORE」では、全国約130の福祉施設や企業からセレクトした商品約4,000点を扱う。グッドデザイン2017ベスト100受賞。

 [www.goodjobcenter.com](http://www.goodjobcenter.com)



### 一般財団法人たんぽぽの家

アートやケアをテーマに展覧会やパフォーマンス、セミナーなどさまざまなアートプロジェクトに取り組む。障害のある人のアート活動に携わる人への相談や研修を行う「障害とアートの相談室」の運営や、福祉施設と企業や地場産業などが連携し、未来にとって必要な仕事をつくりだす「Good Job! Project」などを行う。グッドデザイン2016金賞受賞。また、2017年度からはこれからの技術と福祉の関係を考え、新たなしごと・はたらき方・暮らしをつくるプロジェクト「IoTとFABと福祉」(助成:2017-2020年度日本財団)に取り組む。

 [www.tanpoponoye.org](http://www.tanpoponoye.org)

